

号外

なら医療DX通信

2025
OCTこれから医療DXが加速する？
デジタル庁の新大臣、新副大臣ともに医師が任命

10月21日に高市新内閣が発足し、デジタル大臣に救急医出身の松本氏、デジタル副大臣には医師の今枝氏が就任しました。我が国の喫緊の課題である社会保障の持続可能性と効率化、その手段として有望視されている医療現場の様々なDXを、大きく加速させることが期待されます。

DXはデジタル・トランスフォーメーションの略として使用されていますが、デジタルが得意なD人材と、現場の事情などを知りながらトランスフォーメーションを得意とするX人材とを分け、それぞれが強みを活かすことで現場の変革が進みやすくなるという考え方があります。

電子カルテの普及とシームレスな地域連携、マイナ保険証の運用、災害時の情報共有、医療資源の効率的利用——日頃から高齢者も多く関わる分野であることから、なかなか進まない医療DXのボトルネックに、医師ならではの視点で“現場の言語化”と“優先順位付け”を行うことが、改革を進める鍵となるはずです。これこそ、現場が求める変化です。

私たち医療従事者に求められるのは、難しいIT用語の理解ではありません。いま困っている現場を具体的に伝えること、できる範囲で小さく試すこと、そして得られた成果を分かち合うことです。専門家と一緒に歩むことで、業務負担の軽減や医療・介護の質の向上、患者安全の向上につながります。まずは今日から部署で一つ、今ある課題の発見から始めてみませんか。今こそ【現場発の医療DX】を一步ずつ前に進めましょう。

Mail : spmic2024nmu@naramed-u.ac.jp

SPMIC

Dr.タマモンの
今月のひとこと

急に朝晩冷えてきましたね。気温が下がると、健診で見つかった軽症の異常や慢性疾患が悪化しやすくなります。そんな今こそ、住民や患者を中心とした情報共有「つなぐ医療情報DX」です。

PHRなどを用いて健診結果を患者同意のもと在宅チームや介護施設、病院が共有し、基礎疾患や薬剤情報も一括で確認できるようにする。地域として医療の質の向上、医療資源の効率的利用につながります。

